

# 諫高同窓会々報

長崎県立諫早高等学校  
同窓会事務局  
TEL 22-1222・FAX 22-5104  
http://www.news.ed.jp/isahaya-h/  
編集 塚原 伸二  
印刷 諫早印刷株式会社  
TEL 22-1350

## コロナ禍三年目のなかで



同窓会々長 池田 光利  
(高校二十回・昭和四十三年卒)

同窓会の皆様には、同窓会活動に深くご理解ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。  
コロナ禍三年目の令和四年度も、昨年・一昨年と同様に諫早をはじめ五支部（関東・関西・中京・福岡圏・長崎）すべての総会・懇親会が中止と

なりました。しかしながら、二年間書面開催だった総会前の理事会を、感染防止のため諫早中央体育館（内村記念アリーナ）会議・研修室で開催することができました。  
議事として、長年同窓会活動にご尽力いただいた

た中村慎一副会長の昨年二月急逝に伴う、小林靖明監事を充てる後任人事。また高齢化による人材獲得困難の観点から、旧制中学部会・高等女学校部会から副会長・理事へ選任する規定の削除等の会則の一部改正及び役員改選が承認されました。  
中村慎一氏の六十六歳での早過ぎる逝去に対して、唯々残念でなりません。

諫早高等学校附属中学校創立十周年にあたる令和二年度と、諫早高等学校創立一〇周年にあたる令和三年度の二年間の

高年齢の同窓生から「諫高応援団の応援を見るのも楽しいね」という声もいただきました。今年こそは、諫高応援団と一緒に大応援団旗を掲げて、応援できればと考えます。駅伝の成績は、十二位と前年の八位には及びませんが、大健闘のレースをやってくれたと思います。  
来年は五年に一度の同窓会会員名簿の発行の年にあたります。今年の九月から同窓生の消息等の確認作業に入ります。各卒業回の幹事（理事・評議員）、各支部の役員の皆様をはじめ、会員の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

今後とも同窓会活動を通して、会員相互の親睦とともに母校の発展のため、会員の皆様のお力添えをお願いします。

政府は、去る一月二十七日に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けについて、本年五月の連休明けに季節性インフルエンザなどと同一「五類」に移行する方針を決定しました。海外への渡航歴がない日本人の感染が初めて確認されたのは令和二（二〇二〇）年一月末のことでしたので、その間、中学校及び高等学校全日制課程の修業年限に相当する期間が経過したことになります。

本校では、「見えない敵」と形容された感染症にも注意を払いながら、教育活動を推進していくために様々な対策と工夫を講じてきました。今年度に入り、計画された学校行事は予定どおり実施され、対面での授業も継続されました。しかし、今年度の段階においては、一、二〇〇人近い高校及び附属中学校の生徒全員が限られた空間に一堂に集うには至らず、従前は全校を挙げて開催していた入学式や体育大会については、中高別々に挙行政を不得ませんでした。

こうした状況の中で、本年度、高校生が企画・運営を担って附属中生を対象に「探究道場」を設

## 激動の時代に生きる 子どもたちの取り組み



校長 堤 敏博

同窓会員の皆様には、平素より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。私は、昨年四月に諫早高等学校・諫早高等学校附属中学校の校長として赴任いたしました堤敏博と申します。連綿とした伝統を誇り輝かしい実績とともに世に有為な人材を数多く輩出してきた本校の校長を拝命いたしましたことは、身に余る光榮

に存じますとともに、その責任の重さに身が引き締まる思いがいたしております。コロナ禍の影響で、なかなか思うように何事も進みませんが、生徒諸君のため、校長としての責務を果たしていく所存です。今後ともよろしくお願いたします。

さて、本校の近況について報告させていただきます。令和四年四月現在での生徒数は高校全日制

八三四名、高校定時制二十九名、附属中学校三五九名、合計一、二二二名で、日々、子どもたちは学習や部活動などに一生懸命に取り組んでいます。コロナ禍で、部活動の大会や学校行事などが中止、延期、規模縮小される中で「今何ができるのか」「今だからこそできることとは何か」と前向きに行動してくれています。

進路面では、令和四年三月の卒業生は、東京大学、京都大学などの難関大学をはじめとした国立大学に二〇六名が合格するなど、進路実績を残してくれました。また、部活動においても、令和四年四月以降で、高校全日制においては、陸上部女子、フェンシング部、レスリ

ングがインターハイに出場、放送部がNHK杯全国高校放送コンテストに出場し優良賞（五位相当）受賞、文芸部がとうきょう全国総文祭文芸部門に出場、他にも、バレーボール部男子、テニス部男女、水泳同好会、吹奏楽部、美術部などが九州大会出場や県大会上位進出を果たし、定時制では、全国高等学校定時制通信制大会に卓球競技で出場、附属中学校も、陸上部女子が全国大会に出場、テニス部男女と水泳同好会が九州大会に出場するなど文武にわたる活躍が活躍しています。

そのような中で、陸上部女子が、昨年の十二月に京都市で開催された第三十四回全国高等学校駅伝競走大会に出場し、四十七校中十二位という素晴らしい成績を収めることができました。この大会に先立ちまして諫早高校駅伝後援会からご支援のお願いをいたしましたところ、多くの同窓会員の皆様から厚志をお寄せいただきました。皆様のご支援に対し、心より厚く御礼申し上げます。来年度も今年度以上の成績を残せるように精進してまいりますので、今後とも一層のご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

さて、ここ数年、社会が求める人材は大きく変化しており、明治維新以来の激動の時代が訪れたとも言われています。そのような中、本校でも画一的な答えのない課題に取り組み、自分なりの解

決を創造する探究活動に力を入れています。さらに、昨年度途中から生徒一人ひとりにタブレットを配付し、授業や家庭学習に有効利用するなど、学校としてもこれまでにない大きな転換期を迎えています。今後、自分の足で立って、自分の頭で考えることができる生

## 更なる中高の連携に向けて

全日制 副校長 川原 智司

定しました。この取組は、本校生が直接指導・助言役を担い、両者が触れ合いながら、自らが課題を設定して解決に向けて情報を収集・整理・分析したり周囲の人と意見交換・協働したりして、思考力、判断力、表現力等を培う学習を展開するものです。また、通常の授業においても、高校生が附属中学校の教室に入って中学生のグループワークや問題演習を支援する取組が見られました。このことは、高校生にとっても、自らの学習を振り返り、理解をより一層深める機会になっております。さらに、東京大学に在籍する学生の団体が来校し、高校での学習に向かう意識を高めていくことをねらいとして開催されたセミナーに際しても、附属中生が参加して他校も含めた高校生に正面から議論に臨み、自他に対する認識を深めていくこととする姿勢がうかがえました。今後、高校と附属中学校との更なる連携を図って、学校全体における連帯感を高め、本校の特長を一段と打ち出すことができると考えております。

超少子高齢化社会の進

や、体育館等に設置いただいたWi-Fi環境など、他校にはないすばらしい教育環境で活動できることに對して、生徒ならびに教職員一同、大変感謝しております。ありがとうございます。帰郷の折には、是非、母校にお立ち寄りいただければと思います。



# お礼 令和四年度全国高等学校 駅伝競走大会出場に際して

## 諫早の駅伝

陸上部顧問・女子駅伝監督 羽山篤史 (五十一回卒)

同窓会の皆様には、日頃より多大なるご支援とご声援を賜り、厚く御礼申し上げます。前年度の都大路で八位入賞してから、目標をさらに高い「三位入賞」と掲げて練習に励んでまいりました。陸上に対する意識が高い三

人の三年生を中心としたチーム作りでしたが、度重なる怪我と新型コロナウイルス感染症により、全員での練習が、この一年間ほどできませんでした。それでも選手一人ひとりが自分自身と向き合い、練習面のみならず生活面の向上を図ってきました。

その結果、九月の新人大会では四種目延べ七人の選手が九州大会へと進みました。迎えた十一月の県予選大会では、ベストメンバーではありませんでした。スタートから先頭を譲らず全区間区間の完全優勝で都大路の切符を獲得しました。

二週間後の九州高校駅伝でも五位入賞と手ごたえをつかむレースでした。しかし、なかなか状態が上がらない三年生、昨年の都大路を経験した二年生の離脱、そして昨年快走した先輩の残像、三人の三年生にとって十二月は、不安とプレッシャーが重くのしかかる一か月となり

ました。そのような状況で頼れるのは、やはり同級生でした。三人がそれぞれ不安に思っていることを共有し、現状を受けとめ、お互いに支え合い、「今できる最高のパフォーマンスをしよう」と覚悟が決まったのは、レース二日前でした。主要区間の一区、二区、五区を三年生三人が担い、繋ぎ区間の三区、四区を一年生と二年生に託しました。サポートメンバーも合わせた長距離女子部

員十四名全員で、師走の京都を駆け抜けました。途切れることのない声援により、今の力を出し切ることができました。目標には届きませんでした。飛

が、最後まで素晴らしいチャレンジをしてくれた三人でした。大エースが居なくても一人ひとりが粘り強くつないでいく「諫早の駅伝」、さらに飛躍できるように精進してまいります。今後とも変わらぬ応援をよろしくお願いたします。

# 編集後記

コロナ禍三年目の今年度も同窓会総会・懇親会をはじめとして、各回・支部の活動も中止を余儀なくされ、残念な思いをされた会員の方も多かったことと思います。今年度は総会・懇親会等を再開できるように事務局も尽力していきたいと思っております。

本校におきましても、感染予防対策を徹底しながら、学びを止めることなく日々活動することができています。そのような中で、原稿執筆や情報提供をいただきました皆様方、本当にありがとうございました。

縮小版ではありますが、おかげさまで今年度も同窓会々報を発行することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

「文武両道」の校是のもと、来年度も母校のさらなる躍進のため今後も教職員一同、一枚岩となって努めて参ります。最後になりますが、同窓会々報を「一読いただき、母校に思いを寄せていただければ幸いです。



1区田中→2区蕨野



4区岩本→5区藤丸



# シリーズ「おしどりの池」⑳

岩永 和彦 (三十四回生)

一昨年の春、思いがけず諫早高校附属中学校に異動になり、念願であった母校で勤務させていた

部室も当時と同じところにあり、とても懐かしく思いました。

今度の諫高生は長引くコロナ禍で中学校の学生生活を送り、さまざまな制約の中にいます。その中でも私たちの世代ではなかつた、多様な自主的な活動に励んでいます。

昨今の日本を取り巻く社会情勢の変化は激しく、先の見通しが難しい時代です。今までの常識が通用しないことも多く、生徒は卒業した後にもさまざまな困難な場面を遭遇することが予想されます。これからの生徒一人ひとりに寄り添いながら、それぞれの進路目標を達成し「生きる力」を身につけることができるよう、お手伝いしていきたいと思

ます。

【県定通体育大会】 六月十二日、佐世保中央高校・佐世保工業高校を会場として県定時制通信制体育大会が開催。本校からは、バドミントン男女・卓球男女が出場。卓球女子個人で四年金子咲希さんが個人準優勝

【文化祭】 十月二十八日、第十三回文化祭を本校第二体育

【卒業証書授与式】 前日の同窓会入会式。各種表彰に続き、三月一日、第七十一回卒業証書授与式が挙行されます。令和四年三月までの卒業生は一五五三名、今年度の卒業予定者は六名です。

